

教科	地理歴史	科目	日本史B	担当	
履修学年	2年	単位数	4	履修区分	文系 必履修(2・3年分割履修)
教科書	改訂版 詳説日本史(山川出版社)				
副教材等	図説日本史通覧(帝国書院)				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習評価

評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
a 関心・意欲・態度	古代から近世初期の歴史について関心があり、意欲的に取り組む姿勢が見られる。
b 思考・判断・表現	歴史的事象から課題を見だし、背景や影響を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現することができる。
c 資料活用の技能	歴史的事象に関する諸資料を収集し、適切に選択して効果的に活用している。
d 知識・理解	古代～近世初期の歴史について、基本的な事項に関する知識を有する。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点				単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前 期	4	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	*縄文時代の人々の生活と社会、文化について理解させるとともに、人々の精神生活について考察させる。  *古墳の出現と各地への広がり、に着目し、ヤマト政権の支配や大陸文化の影響について理解させる。	○	○		○	a 原始社会の展開と社会や文化の特色に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究している。 b 原始社会の展開、文化の特色と成立の背景から課題を見だし、東アジア世界との関係と関連付けて多面的・多角的に考察している。 c 原始社会の展開と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表などにまとめ、その過程や結果を適切に表現しているりしている。 d 原始社会の展開、文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	課題提出 授業態度 小テスト リフレクション	
			2 農耕社会の成立		○		○				
			3 古墳とヤマト政権		○	○					
	6	第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷	*飛鳥文化の特色から課題を見だし、東アジア世界との関係と関連付けて多面的・多角的に考察させる。	○			○	a 古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 d 古代国家の展開と文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。		
			2 律令国家への道		○	○					
	前期中間考査										
	6	第2章 律令国家の形成	3 平城京の時代	*律令政治の成立と展開、文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係と関連付けて理解させる。	○			○	a 古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b 古代国家の展開と文化の特色から課題を見だし、律令体制の確立の過程、東アジア世界との交流と関連付けて考察している。 c 古代国家の展開と文化の特色に関する諸資料の活用を通して、歴史的事象を追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d 古代国家の展開と文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	課題提出 授業態度 小テスト リフレクション	
			4 天平文化		○			○			
			5 平安王朝の形成		○	○					
	5	第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治	*古代国家の推移と社会や文化の特色に対する関心と問題意識を高める。	○			○	a 古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。  b 古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽から課題を見だし、東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向と関連付けて多面的・多角的に考察している。		
2 国風文化			○				○				
9		3 地方政治の展開と武士	*律令政治の変質と摂関政治、平安期の社会・文化の特色とその成立の背景及び中世社会への萌芽についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係と関連付けて理解させる。	○	○		○	c 古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d 古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽についての基本的な事柄を東アジア世界との関係の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。			
前期末考査											

後 期	9	第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	<p>■武家政権の成立や社会の仕組み、鎌倉文化の特色とその成立の背景から課題を見だし、東アジア世界との関係と関連付けて多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現させる。</p> <p>■武家政権の成立と社会の仕組み、鎌倉文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係と関連付けて理解させる。</p>	○	○	○	○	<p>a 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運から課題を見だし、武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかかわりと関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に関する諸資料を活用して、歴史的事象を追究し考察した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>d 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運についての基本的な事柄を宋・元とのかかわりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	課題提出 授業態度 小テスト リフレクション	
	後期中間考査										
	11	第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	<p>■室町幕府の成立や社会の仕組み、北山文化の特色とその成立の背景から課題を見だし、宋・明や日明貿易など東アジア世界との関係と関連付けて多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現させる。</p> <p>■一揆や庶民の台頭、下剋上など中世社会の多様な展開、東山・戦国期の文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係と関連付けて理解させる。</p>	○	○	○	○	<p>a 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見だし、日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>d 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向についての基本的な事項を日明貿易など東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	課題提出 授業態度 小テスト リフレクション	
後期末考査											

#### 4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	10	10	10	10
b	40	40	40	40
c	10	10	10	10
d	40	40	40	40
計	100	100	100	100

#### 5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- 主体的に授業に参加し、質問や話し合いを通じて自ら考えをまとめ、根拠を示して表現する機会を設けます。
- 歴史的思考力を育てるため、自ら問いを立てる訓練と主題を設定し、多面的・多角的に考察できるよう工夫します。
- 理解を促すために、統計資料や文書画像などの史料を読み取り、活用できるようにします。

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。